

「こどもが目標に向かうためのサポートを考える研修会」 トーク内容詳細

第1部：体験談トーク「進学・進路選択のリアルな声」

第1部では、大学で学ぶ、ゆきさん(美術専攻、20歳)、あいさん(社会福祉学科、21歳)、まいさん(外国語学部、20歳)の3人が登壇。3名は、一時保護や児童養護施設での生活を経験し、今は一人暮らしをしながら大学に通っています。

3人の話に共通していたのは、「目標を見つけるには、幅広い経験が大切」ということ。まいさんは、説明会やオープンキャンパスに参加する中で英語に興味を持ち、留学を目指すようになったそうです。ゆきさんは、幼い頃の夢であった保育士から、様々な出会いと憧れを経て、美術の道へ進んだ経験から、「過去の経験を振り返ることが進路選択に役立つ」と話してくれました。

進学に向けて頑張っていた時期に、支えとなった人の存在も印象的でした。あいさんは、「疲れて帰ったときに“おかえり”と笑顔で迎えてくれたことが嬉しかった」と話し、ゆきさんは、「夜食を作ってくれたり、相談に乗ってくれたりした職員さんの優しさが心強かった」と語ってくれました。大人の目線だからこそ見つけられる情報や新たな視点での助言が、今の自分にとって大きな支えになったとも話していました。

支援を受ける中で「ちょっと大変だったな」と感じたこともあったようで、たとえば、職員さん同士の引き継ぎがうまくいっておらず、何度も同じ説明をしなければならなかったこと。大事な決定について、自分が職員さん一人ひとりに説明しなければならなかった経験も、少し負担に感じたそうです。

また、「施設出身であることを友達にどう伝えるか」という悩みも共有されました。ゆきさんは、転校初日に先生から一方的に「施設で暮らしている」と紹介されたことに戸惑ったと話してくれました。スマートフォンを持てなかったことで友達づくりが難しかったり、進学情報を集めにくかったりしたことも、今振り返ると大きな影響だったと感じているそうです。

こうしたリアルな声から、社会的養護のもとで暮らす子どもたちが直面する課題や、支援のあり方について、たくさんの気づきがありました。

第2部：施設・里親経験と進路選択の葛藤

第2部では、まなみさん(法律政治学専攻・21歳)となつみさん(人間科学専攻・22歳)が登壇し、施設や里親家庭での生活、精神科入院など、様々な経験を経て大学進学に至るまでの道のりを語ってくれました。

まなみさんは、学校に通えなかった過去から「小卒になってしまうかもしれない」という不安が大学進学のきっかけになったと話し、「大卒という肩書きが欲しかった」という率直な言葉から、進学の動機はそれぞれあることが伝わりました。

なつみさんは、高校中退後に働きながら定時制高校に入り直し、大学を目指した経験を紹介。「中卒でずっと働かなくていいと思っていたけど、やり直すチャンスはある」と気づいた瞬間の話には、希望が込められていました。

また、「意欲がない子ども」への関わり方について、まなみさんは「どうせ無理」と思い込んでしまう環境が子どもの可能性を狭めてしまうと語り、大人が諦めずに声をかけ続けることの大切さを強く訴えました。

なつみさんは、制度や奨学金などの情報を調べて紹介してくれた職員さんの支援が、大学進学の大きな支えになったと話しました。一方で、「現実的な意見ばかりで夢を否定されるような支援はつらかった」とも語り、子どもの気持ちをまず受け止めることの大切さを伝えてくれました。

質疑応答では、施設を出た後の相談相手についても話があり、「誰にも相談していない」という声もあれば、「話しやすい職員さんがいると心強い」という意見もありました。

第3部：就職とその先のキャリア

第3部では、児童養護施設を卒園後に就職したユイさん(飲食店勤務・21歳)とのかさん(ネイリスト・社会人3年目)が登壇しました。

のかさんは、高校時代に美容分野の職業を調べる中で、時間や費用を考えてネイリストを選んだ経験を紹介。ユイさんは、施設での職業体験が進路選択に大きく役立ったと話し、「できないことを克服するより、やりたいことに向かって努力する方が大事」と語ってくれました。

また、ユイさんは「他の子と比べるのではなく、その子自身の良いところを見つけて褒めてあげることが大切」と話し、否定的な言葉が子どもの意欲を奪ってしまうことへの注意喚起もありました。

全体質疑応答 - 大人への率直なメッセージ

セミナーの最後には、参加者との質疑応答が行われました。「信頼関係の築き方」や「話しやすい職員の特徴」など、支援者の方々からの質問に対して、登壇者が率直に答えてくれました。

施設で長く暮らす子どもが「職員が何とかしてくれる」と思いがちであること、それを理解した上での関わり方が必要だという意見も出ました。

まなみさんは、「小卒でも大学に行ける」と自身の経験をもとに、進学に不安を抱える子どもたちへの力強いメッセージを送りました。「あなたはすごい」「何でもなれる」と繰り返し伝えること、夢に向かって一緒に考え、伴走することの大切さが語られました。また、褒め言葉をカードに書いて渡すなど、目に見える形でポジティブなフィードバックを届ける工夫も紹介されました。

最後に、就職後のサポートについて、転職を経験したユイさんから、就職先とのミスマッチや労働環境の問題に直面する可能性があるため、定期的なコミュニケーションの継続や転職支援も社会的養護経験者にとっては重要だと話し、支援現場で活かせるヒントがたくさん詰まった時間となりました。